

HYOGOスポーツ新展開検討委員会 第2回アスリート育成分科会 発言要旨

1 日時 令和6年1月26日(金) 10:00~12:00

2 場所 兵庫県庁5階 庁議室

3 発言要旨

【事務局】

① HYOGO アスリートバンク(仮)の創設について、兵庫が誇る兵庫ゆかりのアスリートをどのようにまとめ、力を発揮させるのか意見を伺いたい。

【寺内委員】

兵庫県にオリンピックやトップアスリートが一目でわかるリストがあると、我々も横のつながりができやすい。そのリストが軸となって、新しいことを生み出すことができる。

自分自身も兵庫ゆかりの選手という共通点で話題が広がり、横のつながりができた。そういったリストがあれば、兵庫のスポーツ選手のOB、OG、現役選手がいることが子ども達にも目にとまり、1つの光になる。

【大畑委員】

アスリートが兵庫県出身、地元の市の出身だとわかることは、地域の方には大きなメリットがある。またアスリートにとっても、いろいろな活動をしていることを知ってもらうことも大きなメリットがある。そういった情報をうまく共有できるしくみがあれば、県としてのスポーツのステージも少し上がるのでは。

【寺内委員】

我々の世代で一番身近な競泳選手といえば、北島康介。しかし、最近の子どもは北島康介を知らないのが現実。しかし、素晴らしい選手であったことを代々脈々と受け継ぐシステムや情報の共有があれば、子ども達がスポーツするきっかけにもなると感じる。

【大畑委員】

兵庫県出身のアスリートが県のシステムに登録し、いろんなところで講演活動をするような仕組みがあるといい。

【寺内委員】

これまで大畑さんと一緒に仕事をしたのは一度だけ。

兵庫県で一緒に仕事をしたことはなかったが、今回のような兵庫県ゆかりの選手が意見交換する機会は貴重。こういったことが活性化につながる。

【事務局】

エクセルの表の名簿だけでは意味がない。それをいかに発信し、一般の方がみられて利用したいと思うような事例や、何かに繋がるもうひとつ先のイメージみたいなものの意見をいただきたい。

【葛城委員】

兵庫県の球団はオリックスと阪神があるが、兵庫県出身は1割いるかいなか。
プロ野球自体が出身地を取り上げる機会が少ないので、そういった情報が集約されていれば、活用できるのでは。

【大畑委員】

一気に情報発信するというのは難しい。何かメリットがないと入ってくる人はいない。
県認定アスリートといった身元がはっきりしている人が集まって、活発に兵庫県のイベントに呼び込むことができれば、バンクに人が集まってくる。点が線になり、アスリートバンクとしての兵庫県の枠が広がっていくのでは。

【内野委員】

それにどのような効果があるのか。過去よりも今が大事である。
歴史も大切だがOBがこういったことをやっていたとしても何も変わらないのでは。このバンクが何を及ぼすかは今のところはわからない。

【寺内委員】

今、兵庫県のスポーツを盛り上げ、スポーツから何か得られるのではないかとといった気付きを持ってもらうための活動をするのが大切で、誰を選ぶかは後の話になる。

【大畑委員】

少し頑張ったら自分もこうなれるといったステージを作ってあげることは大切。
また、功績を残したアスリートが活動することによって、現場が盛り上がることも大切。
最終的に次の世代の子ども達が活躍できる環境を作ってあげることは必要。

【内野委員】

兵庫県出身というのがそこまで大事なのか。兵庫県の人間が兵庫県の人たちを把握して、より距離感を縮めるということから、何が生まれるのか。

【大畑委員】

例えば、滝川第二高校に岡崎さんが在籍していた。自分も滝川第二高校に入学したいと

いったきっかけが欲しいということでは。

【寺内委員】

自分自身、宝塚市にサポートを受け、応援していただいたおかげでオリンピックに出場することができ、宝塚市に飛び込み選手が集まる1つのムーブメントが起きた。

このことが兵庫県で起こることで、スポーツがさらに盛り上がり、経済効果や子どもの育成、さらには教育にも関連し、次のステージが見えてくるのではないか。

【井上委員】

自分自身は愛知県のチームに15年間在籍していたので実感はわからないが、兵庫県出身の人に出会った時は親近感が湧き、距離が近くなった感じがする。

そういった近い人たち意見を出し合い、地域を盛り上げることは楽しみ。

【中田委員】

メタバースという仮想空間に、過去の栄冠のある選手や県外に出た選手達が交流するなど、他県にいながらも兵庫県を感じることができる魅力的なものがある。

そういったAIやこの時代に合ったデジタル系のものを使用することで、兵庫県の歴史や、こういった選手を派遣していたことなど、情報発信をしていけば子どもやアスリートも兵庫県に対する思いが高まってくるのでは。

【大畑委員】

アスリートバンクに登録することで、多くの競技のアスリートと共有することができれば、より多くの子ども達が集まり、複数のイベントを同時に行うことができることはメリット。そうすることで、子ども達の競技選択にもつながり、可能性を拡げていくことにもつながる。

【寺内委員】

朝原さんがアスリートネットワークという事業を、2010年頃から淡路で開催されている。そこでは多種多様の競技に触れあうイベントで、競技自体が盛り上がるというよりも、自身はこの競技が合っているといった選手発掘につながることもメリットのひとつ。

【内野委員】

自身に温度差を感じているのは、一緒にイベントを行いBMXに興味を持ってくれたとしても、活動場所が兵庫県にないのが現状。

アーバンスポーツがそのフィールドに立てていないので、我々はその前にやるべきことがある。

スケートパークは全国各地にできつつある。兵庫県ではみなとの森公園があるが、競技用に設計されていないため、人は集まっていない。そんな中、環境を整えるために私がこの場にいる。

【大畑委員】

整備された場所に人が集まるのであれば、兵庫県が先んじてアーバンスポーツができる環境を作り出せば、メッカ的な部分になれる要素があるのでは。

【内野委員】

世界大会を甲子園で開催したり、体験会やイベントも行っている。
子ども達に興味を持ってもらい、選手を増やしたいと思っているが、受け皿がない。

【事務局】

新聞の記事にもあるが、三田のショッピングセンターの屋上をBMXの練習場に活用するといったケースが出てきている。

他の分科会でも使用していない時間帯や空いたスペースをいかに有効活用するかという議論もしている。

【葛城委員】

この公園はキャッチボールできるといった、施設の情報をアスリートバンクに織り込んでいけばいいのでは。

【事務局】

この分科会に出席いただいている方達からも自分たちのキャリアを生かして、未来の子ども達に何か出来ないかといったお声をいただいている中、さまざま問題の中でスポーツをする子どもが減ってきている。

そこで、講演会やイベント、地域の指導者の派遣等、アスリートバンクがマッチングしたり結節点を持つようなことを探していきたい。

② アスリートのキャリアデザインのサポートについて意見を伺いたい。

【大畑委員】

その競技がしっかりとした環境の中でできるという部分で言えば、大学は1つ大きなものである。プレーする環境がないというのが一番大きな問題であって、そういった環境づくりを整えることは、アスリートのキャリアを1つサポートする大きな要素。

【寺内委員】

セカンドキャリアというものに対して、一番不安に思うことは金銭の部分か大きい。兵庫県の飛び込み施設がなくなることによって選手や指導者が他県に流れることになった。

今の状況では、兵庫県に住み続けながら競技を続けていくことは、飛び込みにとっては難しい。

【大畑委員】

選手が次のステージに行くときに、一番の問題が経済的なこと。アスリートは若くしてそれなりの対価を得ることが出来る。語学を学ぶ機会も必要だが、金銭の運用や活用の仕方を勉強する機会を作ることがキャリアサポートになる。

【葛城委員】

野球では現在、私自身がそういった税の関係や会計についての学習会をオンラインで開催することを計画している。

セカンドキャリアのことを考えている選手も多く、結構な数の申込がある。

【寺内委員】

年末に阪神タイガースとオリックスバファローズの両チームがハワイに V 旅行に行っていたが、オリックスの数名は物価が高いために行かないといった報道があった。

昔は、贅沢なお金の使い方をするイメージがあったが、時代が変わったと感じる。

【葛城委員】

アスリートキャリア支援サービスとして、兵庫県に残れば、この企業に就職できるといった情報をもっと大きく取り上げられれば、選手も残ってくれるのでは。

【大畑委員】

アスリートとして、ある程度キャリアを残した選手がアスリートバンクに登録し、県職員として採用する仕組みを作るのもいい。

アスリートはどうしても競技に集中する必要があるため、子どもの頃から金銭のことを学べる機会を作ることが重要。

【中田委員】

新体操の場合、その環境を提供したところで、選手達はその必要性を感じているかが疑問である。そこまで考えていない選手達へ問いかけ、声を聞くことが重要。その中で、時間はかかるが必要なサポートを子ども達と作り上げていくべき。

【井上委員】

バレーボールに世界が特殊だったのか、特に女子選手はバレーボールだけをしているケースが多いので、引退した後に社会に飛び込むといった状況。

恵まれていたということから引退してから気づく選手が多いので、そういった選手を1人でも減らしたい。

【事務局】

他の分科会で、アスリートに対して語学であったりとか、教育にたいして協力する企業の声が上がった。

現役アスリートがその支援に対して、必要性を感じるのか疑問を感じる。それ以前に支援が必要なのか伺いたい。

【大畑委員】

早い段階でする必要がある。練習と同じで当たり前にする事の1つとしてしまえば、自分の枠が広がってくる。

語学やお金銭のことも、教育として自分の生活の一部になっていけば、ストレスにはならない。

【寺内委員】

選手が社会に出て大切になることや、社会に出るために必要なことを当たり前身につけさせることができるかどうかは、指導者に委ねられている中、どういう指導者が現場に立っているかが大きな問題。

【葛城委員】

野球の場合、高い能力を持ち、高い目標を持った子どもに対してヒヤリング等は必要だが、ただ野球がしたいといった子どもに対して、目標が個人やチームによって全く違うので、勉強や指導というのは難しい。全体の底上げが必要。

【事務局】

これはスポーツに関する事だけでは無いが、今は色々な情報があふれている世界。この情報が、まだまだ子ども達に届いていなかったり、届け方が上手くいっていないと感じた。

③ こども達の可能性をスポーツで広げるということで、イベントをするにしてもその先に何を染みこませるか、子どもたちの日常につながるようなゴールを設定することが重要である。そこを深掘りして議論していただきたい。

【大畑委員】

環境や競技、課題も違う中でゴールを設定することは難しい。人材発掘として、輝かしい選手がいたならば、その選手をサポートしていくこともひとつ。各競技で推薦された選手を海外留学させるようなことを県がサポートすることが、選手のキャリアを後押しすることになる。

【寺内委員】

飛び込み競技でも、年に1人か2人は大学生がアメリカに行っている。しかし、単に海外に行くのではなく、海外のことをよく知るOBやOGなどいろんな情報を入れて、背中を押してあげることが必要。

トップアスリートが講習を受けて指導者資格を取った場合と、一定の講習を受ければ指導者になれる場合がある。そういった場合、どんな形で子ども達に触れあうのか、人間としてふさわしいのかということを経験者の問題として捉えている。

【葛城委員】

公園で野球が出来にくくなっている今、小さい頃から野球に触れあう機会が少ない。オリックスアカデミーは小学校に出前授業を行い、野球の楽しさを伝える事業を行っている。

【大畑委員】

いろんな競技を経験できる機会を作った方がいいとはいえ、実際に競技を選択しても、競技が出来る環境がないといった問題がある。

ラグビーも同じことが起きていて、小学生にラグビースクールはあっても中学校ではやっていない、といった問題が起きている。

【内野委員】

収入面でも同じことが起きている。楽しいから興味を持って始めたものの、世界一になった時にこれだけしか対価がない。大谷翔平じゃないが、差が大きすぎる。

【大畑委員】

兵庫のアスリートバンクとしてそういった情報を提示することも大事になってくる。

【寺内委員】

兵庫のアスリートに支援したいといった企業と、兵庫県の市町で競技を続けたい選手がマッチングできるような仕組みがあればいい。

また、練習場所がなくて、有能な選手が他府県に流れることがある。また、活動場所を

用意すること、また金銭面でのマッチングをすることは県として出来ることでは。

【大畑委員】

練習の環境と、練習が出来ない実情、経済的なことが、アスリートとして活動できない部分。

【内野委員】

一番優先するのは、活動できる環境。練習が出来る場所に引っ越しする人は多い。

【寺内委員】

活動場所がないと、兵庫県にいる理由がなくなる。

【大畑委員】

実際にサーフィンがオリンピック種目になった時に、千葉に家族で引っ越し選手が多かった。やはり、環境を作ってあげることが、その競技にとって大きなメリット。

【内野委員】

私は施設があるので、縁もゆかりもない神奈川に住んでいる。来年、広島にパークが完成するので、広島に引っ越しをする人達が増える。練習環境ができると引っ越し人たちが増えるのも特徴のひとつ。

【葛城委員】

環境を整える前に、どれくらいのスペースが必要なのかという情報が必要。そういった情報を共有できれば、協力してもらえる企業がでてくるのでは。

【内野委員】

BMX ではテニスコートのスペースがあれば、20人ぐらい活動できる。

【葛城委員】

その広さで20人が活動できるということを初めて知ったこと。そういう情報を提示し、施設と交渉することできるのでは。

【内野委員】

借りるのではなく、やはりBMX専用の公式スペースであって欲しい。

【寺内委員】

その情報がデータベースにリストアップされていれば、協力してもらえる人が出てくる可能性もゼロではない。いろいろな人の協力を仰ぐ意味で、アスリートバンクは活用できる。

【事務局】

スポーツビジネス分科会では、スポーツを取り巻く人材、いろいろな企業と選手をつなぐ人材、マネジメントする方の人材が重要だという意見が出ました。アスリートの皆さんと地域をつなぐこのコネクションがバンクなのか、スポーツコミッションなのか、海外の情報も含めて何かあれば伺いたい。

【寺内委員】

飛び込みでは、選手ばかりが注目されており、いい選手がいれば競技が発展するだろうといった思い込みがあった。指導者を招聘すれば金銭的な面で負担がかかるが、指導者の発掘、育成にどう力を注ぐのかを考えている。

【大畑委員】

日本の場合、選手が前に立って、指導者や企業がサポートをする構図。これからはスポーツを支える側の人間にも何かメリットがないと成り立たない。

指導者の場合、ボランティアベースであり、その発想をかえることが必要。

もうひとつは、学校の先生。自分の時間を削って、かつ専門外の競技を教えないといけない。生活指導など、多岐にわたってサポートしないとイケない現状がある。そういった先生の本当の声を聞くことも重要。その上で、兵庫のアスリートバンクに登録されている方が指導する。そういったマッチングが必要。

【中田委員】

環境はすごく大事。そこで、大学と兵庫県が連携することによって、環境が整う。学生がコーチをすることによって指導者を育てる。選手を育てるといった、子どもたちの可能性をスポーツで広げるといったところにつながるのでは。

【井上委員】

部活動がやはり気になる。学校の先生の負担が大きすぎる。地域にいる指導をしたいと思っている人を募集して、お互いがプラスになるようにしてもらいたい。

部活がなくなったり、活動できる環境がなくなる状況をなんとか減らしたい。

【大畑委員】

先生の立場からどうか。

【事務局】

現場から行政に来て、先生方の苦勞を改めて感じている。部活動が地域移行となって、指導者がいなくなり、子どもが置いてきぼりになるのは何とか避けたい。1時間1,500円で指導者が確保できるかは疑問に感じるので、兼職兼業で教員が部活動を見るのが限界なのかと感じる。部活動は人間教育の場としてもあり続けて欲しいと思っている。

【大畑委員】

それが現実的な声だと思う。理想と現実があるので、実際に苦しめられている先生がいる。われわれは理想論だけでしか話ができないので、現実の声が聞いて初めてマッチングにつながる。子どもの声を聞くことも大切だが、先生方の声をきくことも重要。

【寺内委員】

講演の依頼があるが、同じ学校に行くことは少ない。1回1時間話すよりも、年に3回体育の授業をする方がコミュニケーションが取れていいものになる。

【葛城委員】

市から要請があつて野球教室をすることがあるが、定期的にすることによって子ども達の意識が上がったり、話を聞いて成長を感じたりすることができるので、市や県が連携すること大切。

【寺内委員】

学校単位で直に受けるよりも、そういったシチュエーションを作れる窓口になってもらいたい。我々も子ども達のために何か協力したい。

【高橋スポーツ振興課長】

このバンクを作る話はこれから行政で詰めていきます。この分科会に来ていただいた皆さんには何か新しい形でアドバイスいただきたい。窓口は県なりがする中で、子ども達の前に行くような機会があれば、引き続きご協力いただきたい。

また、提案も含めてブラッシュアップしていきますが、実行に移す際にもご協力、ご支援をいただければと思う。

【小倉次長】

まずは、スポーツをする環境が大事だという切実な声とともに、大学の施設を上手く使えないかということ。また、アスリートバンクがいろんなところで機能し、上手く相乗効果が発揮できるひとつのプラットフォームにしていきたい。

引き続き、ご支援いただきたい。本当にありがとうございました。